【彙報】（平成二十一年四月～平成二十二年三月）

◎平成二十一年度埼玉大学国語教育学会大会 総会

○平成二十一年十二月五日（土） 於埼玉大学

◇研究発表

①『源氏物語』における「思ふ」

伊原 永恵（埼玉大学大学院２年生）

②神功皇后伝承の諸相

―国家的神話と地方神話―

合原 彰宏（埼玉大学大学院２年生）

③創造的想像力の発達にかかわる

教師のはたらきかけ

―協働学習の授業をことばのつながりで

考察することを通して―

錦古里眞紀（埼玉大学大学院２年生）

◇講演会

枕草子の性格

木越 隆（埼玉大学名誉教授）

◇総会

◎平成二十一年度例会

○平成二十二年二月十三日（土） 於埼玉大学

◇卒業研究発表

①「ジブラにみる日本語ラップの押韻構造」

江口 遼至（埼玉大学４年生）

②「超現実主義の実相―安部公房

『壁』について―」

斎藤 朋誉（埼玉大学四年生）

③『源氏物語』の主題～明石の君の

存在意義から見る～」

鈴木 加緒里（埼玉大学四年生）

④『古事記』の構想～「秋山の下氷壮夫と

春山の霞壮夫」説話から見る～」

星野 美琴（埼玉大学四年生）

◇長期研究教員研究発表

「国語科における読解力向上のための指導の工夫

―「学び合い」を中心とした文学の授業―」

佐藤 岳輝（埼玉県長期研修教員）

◇修士論文発表

①『源氏物語』の方法―「思ふ」を通して―」

伊原 永恵（埼玉大学大学院２年生）

②「上代地方伝承考―神功皇后伝承を中心に―」

合原 彰宏（埼玉大学大学院２年生）

③「子どもの読みの発達にかかわる

教師のはたらきかけ

―ヴィゴツキー理論をもとにした

授業分析をとおして―」

阪本 眞紀（埼玉大学大学院２年生）

◇退職記念講演会

「西尾実の表現教育論の特質」

竹長 吉正（埼玉大学教授）

◇埼玉大学国語教育学会研究奨励賞授賞式

◎平成二十一年度修士論文・卒業論文題目

○修士論文題目

平成二十一年度修了生（平成二十二年三月修了）

『『源氏物語』の方法―「思ふ」を通して―」

伊原 永恵

「上代地方伝承考―神功皇后伝承を中心に―」

合原 彰宏

「子どもの読みの発達にかかわる教師のはたらきかけ

―ヴィゴツキー理論をもとにした授業分析をとおして―」

阪本 眞紀

○卒業論文題目

平成二十一年度卒業生（平成二十二年三月卒業）

『舞姫』論　―豊太郎はなぜ「もてる」か―　三澤　良太

迦具土神話の意図について（古事記）　新井　幸子

「空色勾玉」の研究　伊藤紗与子

星新一作品論　岩崎　弘也

ジブラにみる日本語ラップの押韻構造　江口　遼至

『アンパンマン』シリーズ分析　江本　央

小学校における詩の朗読について　大嶋　将裕

漫才で行われる掛け合いから見えてくる現代漫才の傾向　片桐　遼

「慣用読み」から日本語変遷の特徴　熊谷　浩二

谷崎潤一郎論　小竹　章裕

王安石の教育思想について　小林　健吾

太宰治『女生徒』について　近藤　優理

企業キャッチコピーの傾向と効果的な表現法　齋藤　静香

超現実主義の実相―安部公房『壁』について―　斎藤　朋誉

樋口一葉研究　佐久間翔子

『古事記』における<鳥>の考察　佐藤　未怜

関東の小中学校における鑑賞教室のあり方について考える　清水　園美

学校現場における音読教育への提案―詩文教材の視点から―　清水　宏明

志賀直哉論　清水　美那

三国志における関羽像―英雄の原型―　菅　佑基

『源氏物語』の主題～明石の君の存在意義から見る～　鈴木加緒里

『ドラえもん』における教育的要素　鈴木　洋子

佐藤春夫「指紋」研究　関根久美子

龍と皇帝との関係―漢代の三史料に見る―　世羅　美乃

クレヨンしんちゃんの社会的意義　反町　清隆

現代における文字考　髙橋　彩

絵本の役割とその魅力　竹田　奈央

漫画から子供の理想を見る　玉田　亮

あまんきみこ研究～「車のいろは空のいろ」を中心に～　田村　容子

小学校教育における「伝え合う力」　永野　清香

『古事記』における五穀の起源神話の意義　二宮　文

村上春樹論―『蛍』『ノルウェイの森』―　野村　一葉

「流行語大賞」から見る日本社会―「流行語大賞」の選定基準をもととして―　古畑　那知

『古事記』の構想～「秋山の下氷壮夫と春山の霞壮夫」説話から見る～　星野　美琴

教師に特定の話し方はあるのか　松永千亜季

少女マンガの効果背景からみる視覚的表現　山下　真穂

ミュージカルの歌で見られる手の動きに関する分析　山田由紀子

石川啄木その思想と文学　吉田　隆彦

◎埼玉大学国語教育学会研究奨励賞

第十一回埼玉大学国語教育学会研究奨励賞受賞論文及び受賞者は以下の通りです。

ジブラにみる日本語ラップの押韻構造　江口　遼至

漫才で行われる掛け合いから見えてくる現代漫才の傾向　片桐　遼

超現実主義の実相―安部公房『壁』について―　斎藤　朋誉

樋口一葉研究　佐久間翔子

『源氏物語』の主題～明石の君の存在意義から見る～　鈴木加緒里

『古事記』の構想～「秋山の下氷壮夫と春山の霞壮夫」説話から見る～　星野　美琴

編集後記

『埼玉大学国語教育論叢』第十四号をお届けします。

本号には、平成二十二年三月に埼玉大学を退職された竹長吉正先生の御講演を掲載することができました。先生は本学会設立当初から本学会を担ってこられた方ですので、その最終講義とも言うべき御講演を掲載することができたことは格別なことです。今後の先生のますますのご活躍を祈念いたします。

さて、本号には、そのほか論文三点、訳注一点が掲載されました。会員諸氏におかれましては、論文だけでなく、実践報告やエッセイ等、様々なジャンルに亘るご投稿も受け付けておりますので、よろしくお願いいたします。(T)